

造の観測に食指を動かさずといった工合である。さて、太陽の大きな関心の一つはいうまでもなく日食観測であるが、その方面から出発して、今や深山深く分け入りつつあるのが“見かけ”は小粒のS教授である。——スワロフ日食のすばらしいフラッシュスペクトルから彩層の各高さでの乱流速度を求め、それから予想される彩層のスパイキュール構造が、彩層スペクトルは勿論、太陽電波の観測、ロケットによる太陽の遠紫外域及びX線領域での観測、星の彩層でできる吸収線等を矛盾なく説明できるかどうか、まことに広いグラウンドである。また同じスワロフ日食で得られた連続スペクトルの解析からHi 助手は最も信頼できる彩層低部のモデルを求めている。またHa 助手は在来のプロミネンスのスペクトル観測を整理して、その物理的状態を調べてきたが、その経

験をスワロフ日食でとられたプロミネンスにも生かそうと試みている。特に京都プロミネンス・グループの出現が、彼の闘志をいやが上にも燃えたたせている如くである。日食観測のもう一方の雄はS助教授である。あらゆる日食にS式四連カメラを送りこんで、コロナのすべてを各日食についてばかりでなく、太陽の11年周期のすべてに亘ってわからせてしまおうという意気込である。そのために、すでに研究室では観測の大量節約態勢が整えられている。最後に残ったM助手は三鷹の塔望遠鏡の観測から、黒点の中には熱いところと冷いところがあるという結論を一応めでたく導き出し、現在は、黒点観測に附随して起ったシンチレーションの問題を残務整理中である。

## 彗星だより

富田 弘 一 郎

### オルコック新彗星=池谷彗星 (1963 a)

6月23日朝イギリスのオルコックが発見した新彗星の、ヤーキース天文台における観測位置の入電があった。この電報を国内に転電後、高知市の関勉氏より同彗星の23日早朝の観測について入電があった。光度8等、核あり、尾については報告がない。

ところが、その後の観測で、この彗星は池谷彗星が急に増光したものであることがわかった。池谷彗星の予報光度は当時12等であり、三鷹のペーカーナンや堂平の観測でも変光が認められている。

### ジョンソン周期彗星 (1963 c)

6月に近日点を通過する予定であった木星属のジョンソン周期彗星は、4月24日アメリカのリーマーが発見した。光度17等、この彗星は1949年に南阿のユニオン天文台でジョンソンが発見し1956年には同じ天文台でブルーワーが帰帰を観測しているもので、離心率が小さく、近日点距離の大きい彗星である。

### オルコック彗星 (1963 b)

三鷹のペーカーナン シュミットカメラで写した人工衛星の写真の中に、発見前のこの彗星の像が見出された。3月1日  $73807 \alpha 19^h 40^m 27^s 94 \delta +46^\circ 33' 22'' 1$

又5月25日、26日までは7.5等級であったが、28日に急に6等に増光したのが、三鷹、堂平、倉敷などで認められた。核もこの日を境に非常にはっきりしたものとなった。ピンク色の美しい恒星状の核が見られた。5月27日に太陽表面に重要度3のフレアーが現われたので、このフレアーと彗星の増光とに何等かの関連があるのかもしれない。その後悪天候つづきで観測がなかったが、6月20日の写真では短い尾が生じている。

### その他の彗星

形が著しく変化したハマースン彗星1961eは夕方北半球でも見えるようになってきた。光度9等級。池谷彗星は明方にまわってからの観測がまだない。グレスト周期彗星は10月に近日点通過の予定であるが、2~4月にかけて堂平で数回の掃索を行なったが未発見である。

## 学会だより

### ◇大塚奨学金希望者募集

昭和39年度の大塚奨学金を受けることを希望される方は9月10日までに下記の事柄を記載の上、“三鷹市大沢東京天文台内社団法人日本天文学会理事長”宛御申込下さい。

- (1) 氏名・生年月日・年令・性別
- (2) 現住所
- (3) 学歴
- (4) 職業
- (5) 研究題目
- (6) 内地留学をしたいと思う研究機関
- (7) 内地留学を希望する期間と日程の予定
- (8) 奨学金として支給を希望する額